時事新報

陸海軍聯合大演習

今度第三師管下に於て施行する陸海軍聯合大演習は既に官報にも見えたる如く近衛幷に第三第四師團及び海軍を聯合する者にして陸軍部に於ては所要の兵員を充足する爲め其管下の歸休兵豫備兵をも召集し其兵數は凡そ三萬以上なる由陸海軍の演習は嘗時みれなきにあらずと雖も一擧、三萬の兵を動したる事は從來に其例なきのみならず聞く所に據れば今回の演習には天皇陛下實に大元帥の任に當らせられ審判の事をも親らし給ふ由に承れば其事體の輕重大小、尋常の演習と同日の談にあらざるを知る可し抑も演習の事たる大小作戰の方案を實演して以て其果して實地に適するや否やを驗し且つは將校士卒の技倆熟練を試むるものにして其必要欠く可らざるは申す迄もなき事ながら殊に今回の如きは我軍事上に少なからざる新知識を與ふる事ならんと思はるゝ其次第は先づ第一に兵員の總數三萬以上ありと云ふ我國古來の戰史上に於て實際三萬以上の兵を以て戰ひたる例は未だ曾て聞かざる所なり近古の大戰と聞えたる關ヶ原の戰爭に西軍は十萬にして東軍は七萬五千なれども西軍中には中途にして叛きたるもの二萬、終始觀望したるもの二萬八千あり其實額は雙方恰も反對をなし即ち西軍は五萬許にして東軍は九萬五千の由なりしかども當時の戰爭の例として此數は夫卒從僕等をも合算したるものなれば實際の戰員は其三分の一即ち西軍は一萬五千東軍は二萬四千許に過ぎざる可しと云ふ又先年西南の戰爭には官賊ともに各々五萬の兵を擧げたる由なれども之は戰爭の前後八個月間に要したる兵數にして實際戰地に在りし兵員は此の如く多數ならざりしと云ふ左れば我國にては今回の如く三萬以上の兵を一令の下に集め而も僅々の日數間に於て之を一地方に動したる事は實戰假戰ともに其例ある可らず此一擧は我大作戰の準備に非常の經驗を與へ軍事上の所得決して少なからざる事ならん聞く所に據れば去る明治十四年龜山の大演習には費用十六萬圓を要し又十八年九州の演習には同じく十五萬圓を要したりしに今回の大演習は前兩回に比し兵數は三倍強、日數は二倍を加ふる其上に兵員を發送する道程の前に比して遠隔なるにも拘らず其費用は十二萬圓餘にて足るの見込なりと云ふ費用の一點に於てすら僅々數年の間に斯る差違あるを見れば近來我軍事上の整理は尋常ならざるものあるを知る可し而して此大演習に於て新に得る所のものは獨り費用の增減のみに止まらず例へば我國の狹軌鐵道が臨時許多の兵員を發送するに適するや否やの議論は近年來軍事社會の一大問題のよしなれども未だ定說あるを聞かず然るに今東京より派遣する近衛兵幷に大坂より出發する第四師團の兵員ともに何れも東西の鐵道を利用する由なれば年來未決の問題を決する爲めには非常の好機會と云ふ可し其他海の演習に依りて我軍事の當局者に益する所固より少小ならざる可しと雖も我輩局外者の觀察を以てすれば間接の効も亦大なりと云はざるを得ず即ち一國の軍氣を皷舞するなとたして三萬の兵士尾勢の野に充滿し艦隊は海面を蔽ひ幾十里の海陸山野砲烟の裡に沒する其壯觀は申す迄もなく辱くも天皇陛下大元帥として其場に臨ませられ親しく將卒を統べさせらるゝ事なれば三軍の士氣みれが爲めに鼓舞して勇氣常に倍す可きは固より其處にして近傍の士民にして眼前當日の盛況を目擊するものは勿論國中到る處その風聞を耳にし又は新聞紙上に記事を讀み萬口相傳へて壯觀を喧稱し知らず識らずの間に全國の軍氣を振起するのみならず海外の國々にても遙に此事を傳聞したらんには日本の軍容に重きを置くなとある可し故に我輩は今回の事が唯我軍務上に經驗の利益を與ふるに止まらずして其間接の結果の必ず空しからざるみとを信ずるものなり

雜報

○品川御料局長　は來る二十日頃より各御料地巡視として東京を出發する由なるが先づ生野礦山を始め中國筋を巡廻する都合なりと

○總監の出張消防掛りの勉勵　從來警視總監が出火の節實地視察のため現場へ出張するは大火の節に限りたるもの〻如き有樣なりしが現任總監田中光顯氏は出火の都度大概出張して諸事に注意を加へる處より消防司令は勿論各消防夫等は常にさへ盡力し居る〻總監自から出張して消防の働らきを實見し或は指揮するを以て一層の勵みとなり我れ其消し口を取りて賞感に預らんと何れも必死となりて働らくより此程四ッ谷、淺草、三田の出火の如き烈風に際し殊に人家稠密に加ふるに水利に乏しき土地の割合には全燒も少なかりしと萬一此上出火等の節は其結果も彌々顯るならんといふ

○警官の忍廻り增加　府下に於ては此程の四ッ谷淺草三田の大火と云ひ毎夜の如く出火放火等のあるより田中警視總監は右取締方に付去る六日臨時に各警察署長を召集して協議する所ありしが昨今は夜中警官の忍び巡行を增加し一層取締向に注意を加へ居れりと

○入澤達吉氏の出發　今度獨逸國へ留學を命せられたる醫學士入澤達吉氏は昨九日午前六時十分新橋發の汽車にて橫濱へ赴き同港解纜の佛國郵船に乘じ渡航しゝるよし

○越中丸救援船　此程の紙上に彼の尻矢岬にて暗礁に乘揚たる郵船會社汽船越中丸救援の爲め兵庫丸橫濱を出帆したる趣記載せしが右兵庫丸は船體掃除の爲め橫須賀船渠へ向け出發したるものにて救援船は去る七日上海より橫濱に入港せし相模丸にして同會社役員三名乘組み昨朝解纜したりと云ふ

○獨逸の政況　去る二月四日夜ビスマーク侯の宴會に於て獨逸帝が談話したる大要を擧ぐれば成るべく速に勞働者の利益となるべき法律を設けんと欲し既に此事に付て取調べの爲め委員を命じたる事なれば遠からぬ內議會に其報告を呈出すべく又海外殖民地を增加せんと欲して止まざれども英國の如く巨萬の金を其費用に投ずる能はざるは遺憾に堪へず就中最も强大の艦隊を備へて英國の如く世界の上に跋扈せんことを希望す云々帝は勞働者の事に關する勅諭に從ふて勞働者の健康を維持し道德を維持し日常必要の食物々品を備せしめ且つ法律の上に於ては勞働者と他の有職あるものとの區別あるべからずとの彼等の主張する所を行はれしむるは一國政府の義務なりとて商務大臣ベルレプシュ氏に取調べの事を命じたり又ビスマーク侯へも勸して英佛、白耳義、及び瑞西の大使に照會し各々共國の政府に於ても獨逸と共に勞働者の必要及び希望を滿足せしむる爲め會議を開かんことを請求せしめたり佛國新聞の記する所によれば若翁ビスマーク侯が政府を退くの心頻りにて遠からぬ內發表するならんとの說は全く無根なり此風說の起りしは帝がフランクフオートに赴きし時に始まりビスマーク侯の宴會にフランクフオートの知事ミッケル氏も臨場せしより益々間違なきもの〻如く云ふに至れり左れども全く時の風說に過ぎずと云ふ

○共和黨益々勢を得んとす　二月上旬葡萄牙の首府リスボン發の報を見るに同國の共和黨は唯さへ追々其勢を增さんとするに近頃は一層勢焰の熾ならんとする色あり或は遠からずして不測の危變あるも計るべからず其原因の種々ある中に一種奇體にも恐るべきは佛國巴里に於て王黨主領の相續者オルレヤン公が馬鹿らしく危險を冒して拘引されたるが爲めに葡の共和黨が激されし事是なり同公と葡の皇后とは兄弟の間柄にて今王と同公との間柄も疎からざるが故に或は公が佛國共和政府に對して穩かならぬ擧動を示したる爲め延ひて葡國王に及ぼすみと決して無しとは云ひ難しとあり

○東洋の弊風　一夫にして多妻を娶るは歐米諸國に曾て無き所なり適まモルモン宗の信者あれども必竟は信敎の自由より起る所にして然かも他の一般人民は其信徒を外道視して敢て歯するを肯せず左れば歐米人の眼より東洋の風習を見る時は事々物々異樣の思ひある上に殊に此多妻の風習に付ては殆んど人外視さる〻の感なきにあらず故に東洋の國民として第一に揮ふて此弊風を矯むるものあれば歐洲人に當して寔に都合も宜しく又輕蔑さる〻みともなかるべし偖も波斯王の如きは王妃王嬪等の名を付したる公然の妻妾幾人あるべきや容易に數へ擧ぐる事さへ六ヶ敷き程の多數なれども先づ普通の世評に從へば殆んど六十人ありて其腹に儲けたる王子は四十餘人なれども死したるもの多く今生存せるものは男子七人女子十二人なり內、國王の世嗣は今年三十六歲にして其妻子女も少からず蓋し謂ゆる東洋風なれば世子の位に在りと雖も王の長男にはあらず妾腹の長子は他にあれども正統の王妃の出なるが故に波斯王百歲の後は王位に昇るものと定りたる譯なり而して王は既に三度まで歐洲を巡廻したれども王子の外出するみとは堅く禁じて許さず此邊ぞ即ち東洋人の眼まる〻所以なるべし王は賢明律義にして東洋風の國王としては實に聖王と稱すべきものなれども虎狼の慾を逞ふせんとする英國と露國の間に挾まれて國運の日に衰るを如何ともする能はずと云ふ

○英國兩大黨未來の總理(前號の續)　出納尙書ゴッシェン氏の缺點は論戰を好むみと度に過ぐる外に最初より保守黨員たらざりし一事なり氏が現政府に入りしは近年の事にして恐らくは氏自身も尙ほ聯合自由黨の一人として記名するみとを好むならん氏は自由黨の總理グラッドストーン氏の計畫したる愛蘭自治案に不服を唱へハーチントン侯等と共に脫黨せし以前でさへも自由黨の急進あるが爲め退歩するが如き觀ありたれば保守政府に連合するも何人も之を非難する無く氏がソールズベリー侯の內閣に入りて經綸の才を伸べんとするに至りしは聯合自由黨の領袖ハーチントン侯の特別の所望ありき然るに保守黨中の門閥家は曾て敵たりし者に對しては自分等と同く初めより保守の空氣を吸ひたる人に對する如く敬慕の念を起さずして議院の內外を問はず苟も中等の保守黨員と呼ばる〻者の談話を聞けば彼等は氏を同體のものと見做す樣子なく且つ氏の才能幷に氏が保守黨の爲に盡す功勞の眞價を知らざるもの〻如し尤も彼等は氏の意見を非難するに非ず氏は世人が保守黨未來の勢力の潜伏するものあるべしと想像する所の所謂保守
員の多數よりも一層保
は感情及び習慣の同一
ず假令へ意見同一なる
與みせざる事あり去り
國大宰相の榮職に上り
は英國保守黨は若し必
し利益を收めんとする
レリー氏が氏を猶太の
し比類なき勢力を得る
決して一朝一夕に得た
ヂスレリー氏と反して
が保守政府に加はりし
下院に於て名望ある一
蘭事務大臣バルフオー
ゴッシェン氏よりも十
少なければ氏の技倆は
能力は愛蘭政略に依て
は判斷を下し難し而し
精神を以て愛蘭政略を
の當否を判斷する能は
て今尙は勇氣と堅實を
と云ふなららん氏は困難
雖ども愛蘭鎭壓策の結
先見と判斷力に闕して
傍觀者の評は擔ぎ從來
黨門閥家の氏に對する
堅實のみならず其聰明
て異口同音にバルフオ
家なりと稱揚せり此の
銳なる部分を占むる温
の活潑なる人々も同じ
は氏が保守黨の壯士を
に注目する多數人士の
て要ふるもの〻如し又
めて稱揚するに足らず
とあるの望も少なけれ
望みは充分あり氏は勇
氏を相手として奮戰す
立つと感ずるも之を擧

○橫笛の名人海を越え
を以て有名なる樂人ア
る頃東洋漫遊を思ひ立
來せんとする由は氏の
の本紙上に記せしが氏
ルイザ シユーフル と
日本音樂會にては他に
午後八時半より臨時大
年十一月廿三日の時事
素性來歷を左に掲げて
歐州に於て橫笛の妙手
ルシヤーク氏は去る頃
で來り同地にて音樂會
由なるが氏の素性略歷
八百三十三年獨逸のゲ
其後墺國維納府に移り
て醫科を修め餘暇を以
屬假舞劇場の樂師なる